

令和2年度
自然資源を活かすエコツーリズム・インタープリテーションの
人材育成支援事業

参加地域 応募要領

令和2年8月

環 境 省

(業務委託先 公益社団法人 日本環境教育フォーラム)

(協力 一般社団法人 日本エコツーリズム協会)

I. 本事業について

1. 背景

日本は豊かな自然や多様な文化の魅力にあふれています。

国を挙げて、地方創生やインバウンド対策に取り組んでいこうとしている今、こうした魅力を大切にしながら、上手に伝え、活かすことで、地域における体験の機会や質を向上させ、訪れる人や滞在時間を増やし、地域での雇用や活性化、持続可能な地域振興に結びつけていくことが、大いに望まれています。

こうしたことを、継続的な取組とし、着実に実現していくためには、日本の豊かな自然やそれらに裏打ちされた多様な文化の魅力や価値を上手に引き出し、伝え、豊かな体験を提供する人材を育成するとともに、そうした人材が活躍できる地域の仕組みや体制をしっかりと構築していくことが最も重要だと考えています。

2. 目的

本事業は、国立公園をはじめとした自然公園地域やエコツーリズムに取り組む地域など、自然資源を活用して地域活性化に取り組む地域(以下、「自然地域」という。)を対象に、国内外のニーズも踏まえながら、ビジターセンターなどの拠点施設のスタッフや体験プログラム、エコツアーなどを企画・実施する事業者やガイド、コーディネーターなど、地域における持続可能な仕組み構築に向けたキーマンとなる人材の育成支援を行うものです。

なお、本事業では、地域全体での継続的な取り組みとなるよう、募集対象を複数の関係者からなる「チーム」といたします。

事務局（問い合わせ・応募先）

Aコース 公益社団法人 日本環境教育フォーラム（担当:小堀）

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-38-5 日能研ビル 1階

電話:03-5834-2897 E-mail:kobori@jeef.or.jp

ホームページ:<http://www.jeef.or.jp>

Bコース 一般社団法人 日本エコツーリズム協会（担当:坪根）

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-24-9 アイケイビル 3F

電話:03-5437-3080 E-mail:tsubone@ecotourism.gr.jp

ホームページ:<https://ecotourism.gr.jp>

主催

環境省 自然環境局 国立公園課 国立公園利用推進室

担当:竹節、荻野、田中 電話:03-5521-8271(直通)

3. 事業内容

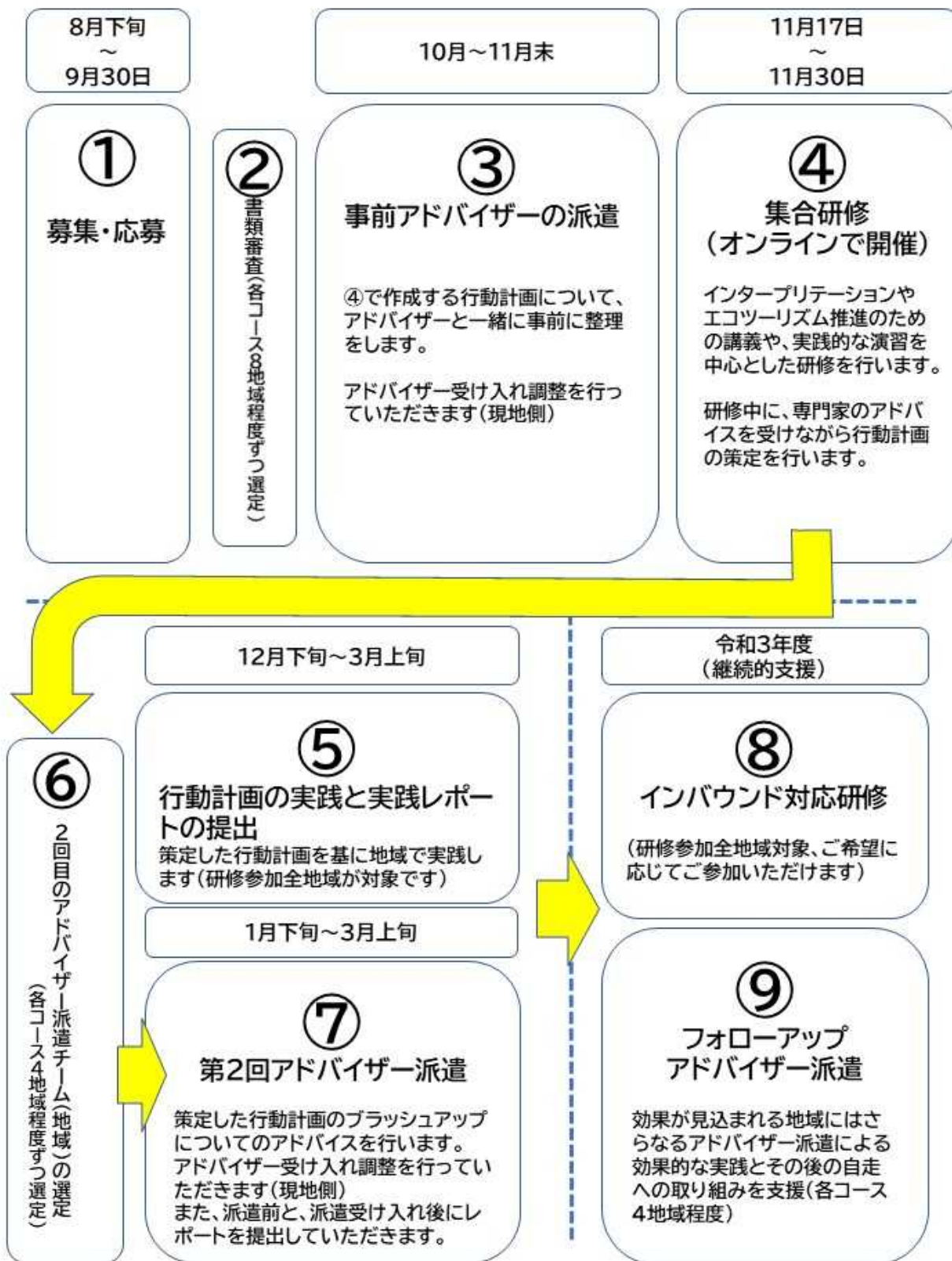
(1) コース設定・募集対象について

- 本事業では、2コースを設定しますので、どちらかを選択ください。
- 募集対象は、本事業終了後も、具体的な数値目標を定め、意欲をもって地域で一体となって自走する仕組みを構築し、継続的に取り組みを行っていただける地域を対象といたします。なお、研修終了後には、取り組み状況やその効果などについてご報告頂き、本事業の評価にご協力いただきます。
- 参加は、複数の関係者からなる「チーム」(2～3人程度を想定)とします。施設スタッフやエコツアー事業者として働いている(もしくは働くことが予定されている)者及び、行政や観光協会や DMO の職員など、事業者等をサポートする側の者がご参加ください。(サポート側のメンバーの参加は必須ではありませんが、参加されているチームを優先的に採択します)

コース		Aコース「拠点施設で働く人向け」	Bコース「エコツアー事業者向け」
対象		主にビジターセンター、自然系博物館、自然学校の他、宿泊施設や観光施設の職員など、拠点施設で働く人	主に着地型ツアー事業者、アクティビティ事業者、エコツアー事業者、エコツアーガイド、地域コーディネーター等
目的		現場における解説業務(インタープリテーション)のスキルアップをはかり、インタープリテーション計画の作成手法も学ぶ	エコツーリズムを活かして地域を盛り上げるために、ツアーガイドや地域コーディネーターとしての能力向上
事業終了後の到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ○インタープリテーションの考え方を理解している ○来訪者に対するコミュニケーションの基本的な考え方を理解している ○インタープリテーション計画作成のための考え方を理解している 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域におけるガイド事業者の役割や、エコツーリズムを活かした地域づくりのための仕組みや体制づくりの基本的考え方、そのための地域コーディネーターの役割を理解している ○エコツーリズムを核としたツアープログラムの企画・実施や事業経営していくための基本的な考え方を理解している
募集 チーム 構成員 (2～3人)	スタッフ 事業者側	主にビジターセンター、自然系博物館、自然学校、宿泊施設、観光施設の職員など、 <u>拠点施設で働いて(もしくは働くことが決まって)いて、主にお客様に対する解説・案内業務に従事している者で、更なる能力向上と地域全体での取り組みに意欲がある者</u>	主に着地型ツアー事業者、アクティビティ事業者、 <u>エコツアー事業者、エコツアーガイド、地域コーディネーター等としてプロ(もしくはプロを目指して)活動をしている者で、更なる能力向上と地域全体での取り組みに意欲がある者</u>
	サポート側	+ 行政担当者、観光協会、DMO や商工会の職員など	

(2) 事業全体の流れについて

当支援事業全体の流れ



※令和3年度の事業内容については、令和3年度の予算成立等に応じて、内容等変更となる可能性があります。

事業の流れ	時期の目安	概要
① 参加チームの募集、受付	令和2年 8月下旬～9 月30日	A・B各コース8チーム程度ずつ、両コース合計16チーム程度募集します。
② 書類審査(各コース8地域程度ずつ選定)	10月上旬	各チーム(地域)の応募フォームの記載内容を踏まえ、本事業での支援が効果的か、継続性、具体性、連携性、発展性、将来性、先進性があるか、などの観点により審査・選定を行います。
③ 事前アドバイザー派遣	10月上旬～ 11月中旬	参加チーム(地域)へアドバイザーを1名派遣(2泊3日程度)し、地域の課題把握や整理などについてのアドバイスを行い、集合研修への参加準備を支援します。 なお、事前アドバイザー派遣に際しては、事務局より参加チームにヒアリングを行ったうえで、派遣するアドバイザー(後述)をマッチングします。 参加チームのみなさまには、地域の関係者の参集や、現地のご案内等の調整をお願いします。
④ 集合研修(オンラインで開催)	11月17日～ 30日	集合研修では、期間中に3回のオンライン集合、各種講義動画の視聴、ワークショップや講師によるカウンセリングなどを通して、行動計画の作成を行います。研修会の最後に行動計画の発表を行います。
⑤ 行動計画の実践、レポート提出	12月上旬～ 3月上旬	各チーム(地域)において作成した行動計画を実践していただき、実践してみた上での感想や課題、今後の取組等をレポートとして提出していただきます。
⑥ 2回目のアドバイザー派遣チーム(地域)の選定	12月上旬～ 3月上旬	集合研修の参加状況や、作成した行動計画等を踏まえ、各コース4チーム(地域)程度ずつ選定し、2回目のアドバイザー派遣を行います。
⑦ 2回目のアドバイザー派遣の実施、レポート提出	令和3年1月 下旬～3月 月上旬	アドバイザーが、行動計画のブラッシュアップや行動計画の実践に向けたアドバイスを行います。参加チームには、その後の取り組み状況等も踏まえ、2回目のレポート提出をしていただきます。
⑧ インバウンド対応研修	令和3年度 上期	外国人観光客(インバウンド旅行者)の受け入れや、対応ができるようになるための、2泊3日程度の集合研修を行います。(希望参加制)
⑨ フォローアップアドバイザー派遣	令和3年度 中	具体的な効果が見込まれる地域(各コース4地域程度ずつ)については、具体的な数値目標を定めて実践しながら、フォローアップ終了後は自走することを目的に、令和3年度内にアドバイザーを1回程度派遣します

※令和3年度の事業内容については、令和3年度予算の成立等に応じて、内容等変更となる可能性があります。

(3)補足事項

●事前アドバイザー派遣について

○派遣にかかる経費

派遣するアドバイザーの旅費(現地までの交通費、現地での宿泊費。2泊3日分)及び謝金については、環境省(事務局)が負担します。その他の費用(現地での移動費用、施設利用料、入場料、その他アドバイザーの実施にあたって現地で発生した費用等)については、応募地域にて負担願います。

○その他

アドバイザー派遣の実施にあたっては、基本的に主催者及び事務局は同行しません。派遣地域においては、応募チーム(地域)を中心に、取り組み地域側が、アドバイザーの現地での移動、説明等の同行の対応をお願いします。

○派遣アドバイザー（予定）

コース	アドバイザー	所属	活動・主な専門分野	具体的な得意分野
A	川嶋 直	(公社) 日本環境教育フォーラム理事長	インタープリテーション関連	特に IP の手法、人材育成、研修設計など。
A	鳥屋尾 健	(公財) キープ協会環境教育事業部長	インタープリテーション関連	特に施設運営、展示、人材育成、団体対応など。
A	古瀬 浩史	帝京科学大学教授 (一社) 日本インタープリテーション協会代表理事	インタープリテーション関連	特に自然公園や施設の IP 全体計画、個々の IP や手法、展示、施設運営、人材育成など。
A	古屋 絢子	全国通訳案内士 神田外語学院 非常勤講師	インバウンド対応の全般	外国人目線を活かしたコンテンツの活用やプログラム作り、配慮すべき事項についてなど。
A	山崎 宏	(特非) ホールアース研究所代表理事	インタープリテーション関連	特に施設運営、地域連携、人材育成、団体対応など。
B	江崎 貴久	(有) オズ 代表取締役/ 海島遊民くらぶ	ガイド事業運営/ 地域協議体等組織	エコツーリズムによる地域連携 地域内連携 農・漁業と観光の連携手法
B	海津ゆりえ	文教大学国際学部 国際観光学科 教授	エコツーリズム論 /地域観光資源活用/ エコツーリズム推進協議会設立等	エコツーリズムの理念・理論 /エコツーリズム推進協議会等の設立
B	府川 尚弘	静岡ツーリズムビューロー ディレクター	インバウンド推進 /地域連携/ 観光マーケティング	県・広域連携レベルのDMO 単位での海外プロモーション /DMOと地域事業者の連携手法
B	松田 光輝	(株) 知床ネイチャーオフィス 代表取締役	ガイドング/ ガイド事業運営/ 地域協議体等組織	環境保全と利活用にかかる協議体の組織化と運営/ ガイド事業における経営・運営・商品開発・ガイド技術等全般のアドバイス
B	松本 毅	(有) 屋久島野外活動総合センター代表取締役	ガイド事業経営	エコツーリズムガイドの技術と担い手育成、ガイド事業運営

●集合研修(オンライン開催)について

本研修は、当初、3日間の集合型での開催を検討してまいりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、集合での研修開催が難しい状況となりました。

そこで本年度は、「オンライン会議システム(zoom)」と「動画教材(YouTube)」による自習とを組み合わせ、オンラインで開催することとなりました。

研修の進め方の概要は以下の通りです。

1. 研修期間は、11月17日(火)～11月30日(月)となりますが、実際に参加者の皆様が「オンライン会議システム(zoom)」を使用し、お集まりいただくのは「オンライン集合日」となります。オンライン集合日以外については、動画教材による自習期間とカウンセリング及びチームごとの行動計画の作成となります。
2. 「オンライン集合日」に「オンライン会議システム(zoom)」を使用して、発表や講義を行います。
開催日は11月17日(火)(両コース)、11月24日(火)(Aコース)、11月25日(水)(Bコース)と11月30日(月)(両コース)です。この日は必ずご参加いただきます。
なお、運営の都合上、各チームのメンバーは原則一つの場所に集合し、1台の機器でご参加いただきます。
3. 自習期間中(11月18日(水)～11月23日(月))に「動画教材(YouTube)」による自習を行っていただきます。
4. 行動計画の作成に際し、講師と参加チームとの「個別カウンセリング」を11月26日(木)～11月29日(日)の期間で行います(zoomを使用)。時間の調整は事務局を中心に進めさせていただきます。

日程	内容
11月17日(火)13:00～18:00	オンライン全体集合日(1)
11月18日(水)～11月23日(月)	自習期間
11月24日(火)9:00～17:25	Aコースオンライン集合日
11月25日(水)9:00～16:50	Bコースオンライン集合日
11月26日(木)～11月29日(日)	カウンセリング・行動計画発表準備期間
11月30日(月)10:00～17:00	オンライン全体集合日(2)

環境省人材育成支援事業 集合研修の全体像とカリキュラム

目的:

自然資源を活用して地域活性化に取り組む地域を対象に、国内外のニーズも踏まえながら、ビジターセンタースタッフ(インタープリター)やエコツアー事業者など、地域における持続可能な仕組み構築に向けたキーマンとなる人材の育成支援を行う。



11月17日(火)

オンライン全体集合日(1) 13:00~18:00	
内容	担当
研修の全体像の紹介	環境省/川嶋 直
自然を守り活かすツール	環境省
アイスブレイク・自己紹介	ファシリテーター
基調講演「自然資源を活用した観光と地域における取り組み」	江崎 貴久
基調講演「インタープリテーション総論～インタープリテーションが広げる地域の可能性～」	鳥屋尾 健
懇親会(自由参加) 19:00頃から	

11月18日(水)～11月23日(月)

自主学習期間(6日間) 視聴時間 計4～5時間程度	
内容	担当
両コース必修	
講義「日本の自然環境の価値と意味」	田中 伸彦
講義「インタープリテーション概論」	古瀬 浩史
講義「エコツーリズム概論」	日本エコツーリズム協会
講義「自然保護・モニタリングについて」	横山 隆一
Aコース必修	
講義「テーマを基にしたインタープリテーション」	古瀬 浩史
講義「インタープリテーションの様々な道具や手法の紹介」	古瀬 浩史・古屋 絢子 川嶋 直・鳥屋尾 健
講義「インタープリテーションのプログラム・デザイン手法」	川嶋 直
Bコース必修	
講義「ガイド手法とプログラムづくり」	松本 毅
講義「リスクマネジメント」	松本 毅
講義「マーケティング・販売戦略について」	松田 光輝 木村 雄志
講義「事業経営について」	松田 光輝

11月24日(火)

Aコースオンライン集合日 9:00~17:25	
内容	担当
講義「人材育成の設計手法」	山崎 宏
講義「インタープリテーション全体計画」	古瀬 浩史
講義「IP全体計画の紹介と実際のIP（パーソナル&ノンパーソナル）の紹介」	高尾山VC（村上 友和） 古瀬 浩史
WS「IP全体計画を書いてみる」その1	古瀬 浩史
WS「IP全体計画を書いてみる」その2	古瀬 浩史
行動計画作りへのオリエンテーション	鳥屋尾 健

11月25日(水)

Bコースオンライン集合日 9:00~16:50	
内容	担当
講義「地域におけるエコツアーガイドの役割」	江崎 貴久
講義「地域内の協力体制づくりとコーディネーターの役割」	江崎 貴久
トークセッション	各講師/事務局
行動計画作成ワークショップ	各講師/事務局
行動計画の共有とアドバイス	各講師

11月26日(木)~11月29日(日)

カウンセリング期間・行動計画発表準備期間（4日間）
各講師とチームがアポイントの上、カウンセリングを行う（各チーム4~5名の講師@45分程度を想定）
行動計画作成

11月30日(月)

オンライン全体集合日（2）10:00~17:00	
内容	担当
ブラッシュアップした行動計画の発表会（Aコース） （Bコースは任意参加）	全講師
昼休憩	
ブラッシュアップした行動計画の発表会（Bコース） （Aコースは任意参加）	全講師
意見交換	ファシリテーター
研修全体のふりかえり	ファシリテーター
閉会式	環境省/事務局

※カリキュラム、講師・講義のタイトルは変更となる場合があります。

Ⅱ. 応募方法について

(1) 応募書類について

- 応募フォームを、環境省ホームページ、または応募先の事務局(1頁記載)のホームページからダウンロードの上、電子メールまたは郵送で希望コースの事務局(1頁記載)まで提出してください。
- 応募フォームは、チームの構成員で話し合いの上でご記載願います。また、記載の内容は、他の参加チームとも共有いたします。
- 提出された応募書類は本事業に関する目的以外には使用しません。お預かりした個人情報は、「環境省所管事業分野における個人情報の保護に関するガイドライン」に従い管理します。なお、応募書類は返却いたしません。
- 応募書類は日本語でご記入ください。なお、応募フォームの様式は変更せずにご記入ください(記載内容に応じて、枠を広げることは可とします。)

(2) 応募締切

令和2年9月30日(水)必着

(3) 応募にあたっての留意点

- 応募に当たっては、事前に所管の自治体とご相談、ご了解をいただいた上でご応募ください。
- 国立公園内に該当する場合は、所管する環境省の出先機関(地方環境事務所、自然環境事務所、国立公園管理事務所、自然保護官事務所等)にも、事前にご一報いただくことをお勧め致します。

Q&A コーナー！ 本事業に関する質問と回答

Q：平成 28 年度まで行われていた「エコツーリズムガイド等養成研修」及び「エコツーリズム推進アドバイザー派遣事業」と関係があるのでしょうか？

A：平成 28 年度まで行われていた両事業の後継事業となります。本事業の事前アドバイザー派遣は、昨年までの「エコツーリズム推進アドバイザー派遣事業」に相当し、本事業の集合研修は、昨年までの「エコツーリズムガイド等養成研修」のスキルアップ編に相当しワークショップを充実させたものとなります。

Q：主な活動フィールドが国立公園ではないのですが応募は可能でしょうか？

国立公園満喫プロジェクトの対象国立公園ではないのですが応募は可能でしょうか？

A：いずれも可能です。自然資源（里地・里山などの自然を含む）を活用した地域振興、観光振興を目指す地域であれば、どこでも対象となります。

Q：募集対象となる「地域」とは、どのような範囲でしょうか？

A：「県境を越えた自然公園全体」～「ひとつの集落」まで、およそ「地域」と呼べる単位といたします。

Q：フリーで自然のガイドをしています、個人での応募は可能でしょうか？

A：事業全体では、アドバイザー派遣の地域側での受入や、地域の課題解決のための行動計画の作成等を行いますので、応募は必ず、地域の行政担当者に相談のうえ、できるだけサポート側の関係者を含め 2～3 名程度での応募をお願いします。

Q：自分たちの活動（事業）をサポートしてくれる行政の部署、担当者などはどのように見つければよいでしょうか？

A：応募しようとする者の活動する自治体の地域振興・観光・産業・環境部署、最寄りの環境省自然保護官事務所などの担当者などに協力を打診してみてください。観光協会や商工会の方がサポート側のメンバーとして参加されても良いです。（募集要領 2 ページ参照）

Q：観光課の職員です。一緒に参加したいガイド等が 10 名ほどいるのですが参加可能でしょうか？

A：なるべく多くの地域からの参加を受け入れたいので、原則としてスタッフ・事業者側の方＋サポート側の方＝合計 2～3 名のチームでの応募をお願いします。若干名であれば、全体で受入人数が決まった後に余裕がある場合にのみ受入調整を行うことを前提に、別途、ご相談ください。

Q：集合研修前の事前アドバイザー派遣は、応募すれば必ずアドバイザーに来ていただけるということではないのでしょうか？

A：募集上限（A・B 各コース 8 チーム（地域）程度ずつ、両コース合計 16 チーム（地域）程度）を超えてしまった場合のみ、書類選考があります。（募集要項 4 ページ参照）

Q：サポート側のメンバーは、市町村ではなく都道府県の方でもよいですか？

A：サポート側のメンバーとしては、都道府県でも構いません。なお、その場合は、都道府県や市町村との関係性などがわかる体制図やビジョン等を参考にお示しいただければと思います。

Q：同一地域からAコースとBコース両方に応募することは可能ですか？

A：チームを構成するメンバーが異なる2チーム（例えば、Aコースでスタッフ1人行政1人、Bコースで事業者2人観光協会1人）で応募していただく場合には可能ですが、なるべく多くの地域からの参加を受け入れたいので、応募チーム（地域）が多数になった場合は、1地域1チームでお願いさせていただくことを、あらかじめご了承願います。

Q：Aコース、Bコースそれぞれ対象となるメンバーで構成されるチーム（例えば、ビジターセンタースタッフ1人、エコツアー事業者1人、行政1人の3人）で参加して、集合研修においてAコースとBコースに分かれて参加することはできますか？

A：カリキュラムの中で、チーム毎に検討いただく場面等があり、参加者が1人になってしまうことは避けたく、原則は、Aコース、Bコースどちらかを選んで応募をお願いします。

Q：A、Bどちらのコースに応募して良いか迷っているのだが・・・

A：事前に、応募の目的や地域の課題等を整理いただき、それぞれの事務局にご相談いただくことをお勧めいたします。なお、応募フォームへの記載内容等を確認の上、よりふさわしいコースを、事務局からお勧めさせていただく場合もございます。